



第37回ASTAP総会結果報告

総務省 国際戦略局 通信規格課

1. はじめに

2025年4月21日（月）～25日（金）の日程で第37回ASTAP総会（ASTAP-37）がバンコク（タイ）において開催された。

ASTAPは、アジア・太平洋地域におけるICT分野の標準化に関する地域協力を確立し、グローバル標準化活動に貢献すること、ICT分野の研究、分析を通じてAPT（Asia-Pacific Telecommunity）メンバー間における知識と経験を共有すること等を目的としている。

ASTAP-37には、APT加盟国38か国のうち、19か国から140名が参加、日本からは、NTT、NICT、NEC、OKI、TTC、総務省より計27名の参加登録があった。なお、会合の一部及びインダストリーワークショップはオンラインからも参加可能なハイブリッド形式での開催であり、日本からは17名が物理参加した。

2. 第37回ASTAP総会の結果概要

○インダストリーワークショップ

初日の4月21日（月）には、新興技術に関するインダストリーワークショップが開催された。「AI」と「メタバース」の2つのセッションに、日本、中国、韓国から計14名が登壇し、日本からは、計4名が講演を行うとともに、山本 秀樹氏（OKI）がメタバースに関するセッションのモデレータを務めた。

各セッションの我が国からの講演者は以下のとおり。

セッション1：AIの技術と標準化

「AIについてどのように議論すべきか」：

Leon WONG氏（楽天モバイル）

「人間のコミュニケーションのためのAI技術」：

長尾 慈郎氏（NTT）

セッション2：メタバース

「メタバースプラットフォームの最新トレンドと標準化の展望」：平木 剛史氏（筑波大学）

「Worksite Augmenting Metaverseの実証」：

新倉 雄大氏（日立）

○ASTAPの組織体制

ASTAPの検討体制は、11の専門家グループ（EG）と、技術分野ごとに専門家グループを取りまとめる3つの作業グループ（WG）で構成されている。各専門家グループからの成果文書は作業グループでの承認を得た上で、プレナリにおいて最終審議が行われる。

今回会合において、日本からはEG BSG（Expert Group on Bridging the Standardization Gap）副議長に眞野正稔氏（TTC）に代わり角方 重明氏（TTC）が就任した。

ASTAPの体制と我が国からの役職者を図2に示す。

○日本寄書 作業方法の改訂

今会合にて総務省よりASTAP作業方法の改訂に関する寄書を1件提出し、現在「少なくとも会合開始の7日前まで」となっている寄書提出の締切りを「会合開始の10日前まで」と改訂するよう提案した。Opening Plenary、タスクフォースセッションにて議論が行われ、Closing Plenaryにて無事に本提案が承認された。これによりASTAP会合とAPT-WTSA準備会合の寄書締切りが共に10日前期限でそろふことになり、国内手続き等、混乱を避けられることになった。

○日本企業・研究機関からの寄書に関する検討

日本企業・研究機関から計19件の寄書を提出。主な検討結果は、以下のとおり。

・APT研修の報告書に関する議論提案

提案者：TTC、NEC、NTT、OKI

2024年12月に東京で開催されたAPT研修「ASTAP及び関連組織の標準化における専門家の育成～標準化にお



■図1. 会合模様写真

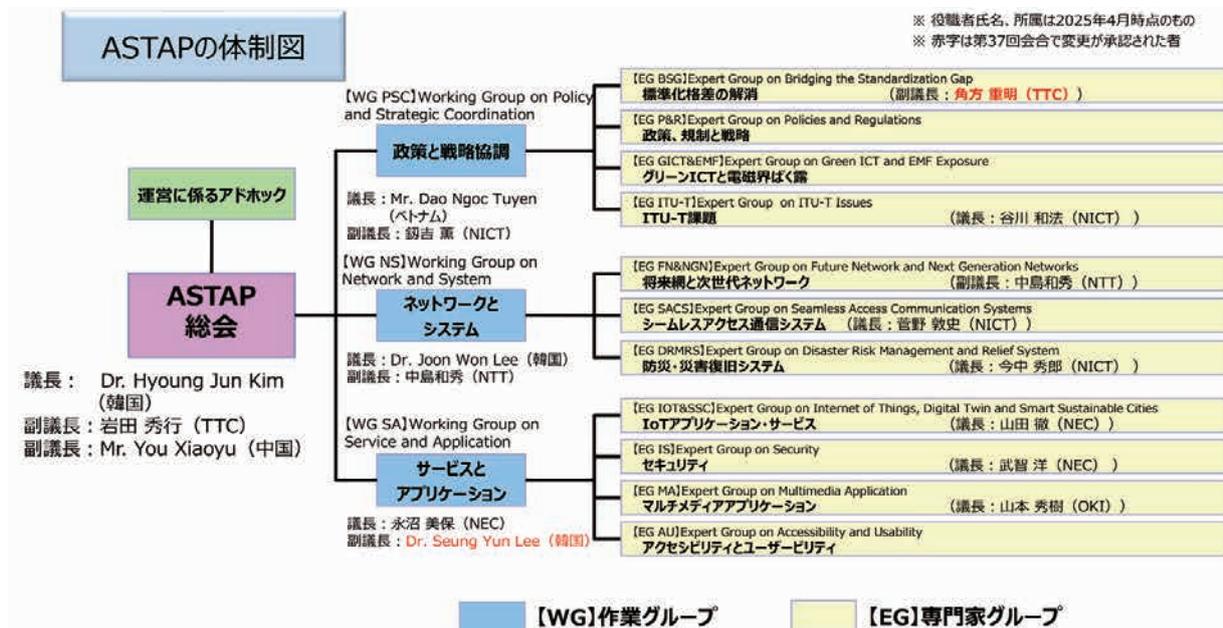


図2. ASTAP体制図 (敬称略)

ける新興技術の紹介～」の概要を報告し、研修の成果をASTAPの将来戦略タスクフォースにおける今後の議論の材料として活用することを提案する寄書を提出。会合では、EG-BSGにおいて、議長から日本のTTCや韓国のTTA (Telecommunication Technology Association) 等、各国の標準化団体においても専門家育成プログラムの調整を進めている旨の紹介があり、本報告書について今後のAPT標準化研修プログラムへの活用可能性を考慮し、アジア太平洋地域の標準化機関がAPT研修及び関連教材の開発に協力することを奨励することで合意された。また、加盟国に対してAPT研修プログラムへの参加を促進するよう推奨された。

- ・ アジア太平洋地域におけるデータ共有とその環境に関する課題調査のためのアンケートの提案

提案者: OKI, NICT

AI技術の進展に伴い、分野や国境を越えたデータ利用の機会が増加している中、法的規制、技術インフラの標準化の欠如、セキュリティの懸念などを課題として捉え、データ共有の現状や課題を明らかにすることを目的としたアンケートの実施を提案。会合での議論の結果、本件は一部修正された上で承認され、質問票が発出されることとなった。

- 他国企業・研究機関からの提出文書に対する審議の概況
マレーシアより1件、韓国より20件、タイより2件の寄書が

提出された。いずれも地域勧告の提案ではなく、事例の紹介、レポート作成または改版の提案、ベストプラクティスを収集したガイドライン等の作成及びレポート・ガイドライン作成のためのアンケートを実施する提案であった。

主な議論の内容は以下のとおり。

提案国: 韓国

EG PRS活動再開の提案

2022年のASTAP-34から休止しているEG PRSの活動を再開し、ICT政策、規制、戦略に関する研究報告書を作成すること及びASTAPからAPT WTSA-28へ候補となる決議案として提出することが提案された。日本は、APT WTSAへ提案することはASTAPの活動範囲を超過してしまうとしてこの提案に反対。各国からの、APT WTSAはWTSAに向けて行う準備会合であるため、それと重複する取組みは避けるべきとの指摘もあり、承認には至らなかった。

提案国: 韓国

生成AIの安全な利用に関するガイドラインの提案

生成AIの急速な進化による産業変革とともに、サプライチェーンの脆弱性やデータプライバシーリスクなどのセキュリティ課題が懸念されている。本提案は、現在のAIセキュリティ標準のギャップを分析し、安全なAIサプライチェーンのガイドラインや生成AIRisk管理フレームワークの開発を行おうとするものである。会議ではオープンソースAIプ



プロジェクトにおけるサプライチェーンセキュリティの検証と国際的な協力への段階的なロードマップを策定した。即時のガイドライン作成提案であったが、議論の結果、スコープとロードマップの修正を経て、まずはテクニカルレポートを作成するところから長期的にガイドラインの作成を目指すことで合意された。

○主な出力文書

最終プレナリで承認された主な出力文書は表のとおりである。5件の新規レポート、1件のガイドライン、4件の質問票及び4件のリエゾン文書について合意した。

○Task Force on ASTAP Future Directionの結果と今後の活動

ASTAP-35において設置され、議論がなされてきたASTAPの将来に向けた検討タスクフォース (Task Force on ASTAP Future Direction) については、会合期間中に2回のセッションが設けられた。セッション内では、Opening Plenaryにおいて行われたこの1年間の検討結果の報告を踏まえ、主にASTAP組織再編及び作業方法について検討が行われた。検討内容及び結果は以下のとおり。

1. ASTAP組織再編

ASTAPの組織再編について議論された。その結果、構造改編におけるEGの新設については、今回の会合では合意に至らず、次会合 (ASTAP-38) まで継続して議論していくこととなった。(次会合までの間に要職者にて4回オンライン会合実施予定。)

2. 作業方法

先述した総務省からの提案であるASTAPへの入力文書の提出期限の変更や、WG議長及び副議長の任期制限の変更について議論された。タスクフォースにおいては合意に至らなかったものの、その後のオフラインでの調整を経て、ASTAPへの入力文書の提出期限については日本からの提案である「会合開始の10日前まで」への改訂が合意され、WG議長及び副議長の任期制限については、任期を3年とし、2回の再任を認めることで合意された。

○今後の予定

次回会合については、日程、開催地ともに確定していない。スケジュールは改めて通知される予定である。

■表. ASTAP-37において承認された主な出力文書

文書番号	タイトル	担当WG等
新規レポート		
ASTAP-37/OUT-21	APT Report on future network services in 6G and beyond in Asia-Pacific region	WG NS
ASTAP-37/OUT-22	APT Report on Local-area Resilient Information Sharing and Communication Systems	WG NS
ASTAP-37/OUT-23	APT Report on Cascaded free-space optical and millimeter-wave communication system for small-cell access network	WG NS
ASTAP-37/OUT-32	APT Report on the Current Status of the APT Countries' Relay Services for Accessible Emergency Communication	WG SA
ASTAP-37/OUT-33	APT Report on problems and requirements on CDN services in Asia-Pacific region in COVID-19	WG SA
新規ガイドライン		
ASTAP-37/OUT-31	Guideline for IoT Security (for Manager)	WG SA
質問票 (Questionnaire)		
ASTAP-37/OUT-11	Draft Questionnaire for Industrial Members through SDO in the Asia-Pacific Region	Task Force
ASTAP-37/OUT-17	Questionnaire on green data center practices and climate resilience in the Asia-Pacific regions	WG PSC
ASTAP-37/OUT-28	Questionnaire on use cases of Generative AI in Asia-Pacific region	WG SA
ASTAP-37/OUT-29	Questionnaire to survey the technical challenges of data sharing and its environment	WG SA
出カリエゾン文書		
ASTAP-37/OUT-16	Reply Liaison Statement to ITU-T SG3RG-AO	WG PSC
ASTAP-37/OUT-19	Liaison Statement to ITU-T SG13	WG NS
ASTAP-37/OUT-20	Reply Liaison Statement to ITU-D Study Group 1 Question3/1	WG NS
ASTAP-37/OUT-30	Liaison Statement to ITU-T SG21	WG SA